

## 第2節 新しいライフスタイルを求めて

# 衣食足りて住へ どこに住む、誰と住む

自慢の我が家でインテリアに凝る

衣食は足りても住はまだまだ、という人は多いようだ。総理府の調査では、首都圏に住む人の3割が住宅に不満で、その内容は「庭がない」「部屋数が少ない」など。また高額のローンを背負っても、持ち家がよいという人も57%いる。市内の持ち家率は、50年には47%だったが、60年には55%といぜんとして増えている。これは全国平均の62%を下回るものの、11大都市中第1位にあたる。しかし、最近の地価高騰の影響



第3回横浜まちなみ景観賞を受賞したコモンシティ湘南六浦(金沢区)

響か、首都圏でマイホームの計画をたてている人の割合は10年前に比べ減っている。

高価な土地は有効に利用というわけで、市内では共同住宅が急増している。55年には戸建てに住む世帯の方が共同住宅に住む世帯より多かったのに、60年にはこれが逆転し、共同住宅が49%と戸建て47%を上回った。また、共同住宅は上へ上へと高層化が進んでいるのも特徴だ。そしてわずかだが、住宅は広くなっている。1世帯当たりの平均室数は55年3・8室から60

### 市民データ

#### おもしろ

- DIYショップによく行く人は全体で **16%**
- 田園都市線沿線の方は日曜大工が趣味? **26%**
- 東海道横須賀線と京浜東北線はかなづち嫌いなのか **9%**
- 居住年数3年以下の方は引っ越し直後に必要で **24%**
- 自分専用の部屋がある人 **50%**
- 寝るときはベッドを使っている人 **25%**

年4室へ、1人当たりの畳数も55年7畳から60年8畳へ。ただし、持ち家とそれ以外の差は、非常に大きい。

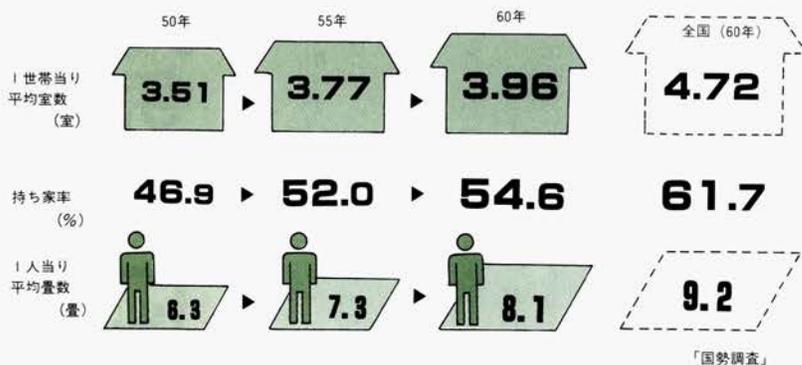
快く住むためには、インテリアも重要だろう。「インテリア用品は高くても色やデザインの良いのを買う」人は市民の58%、また「観葉植物が5つ以上ある」家も4割。こういったインテリア志向は、持ち家の人に多い。

横浜が好きで住み続けたいという人も多い。現在住んでいる所にこれからも「住み続ける」人は44%、「たぶん」27%を加えると71%の人が定住意向をもっている。一戸建て持ち家の人ではこの数は87%にもなる。定住理由は「持ち家だから」がトップで、次が「住みなれている」から。これらのほかは、緑や自然が多い、通勤・通学に便利、横浜が好き、がほぼ同じ割合で続く。また「移転する」という人でも約半数は市内での移転を考えており、その理由は「家族の関係」と「横浜が好き」が同じくらい。横浜が好

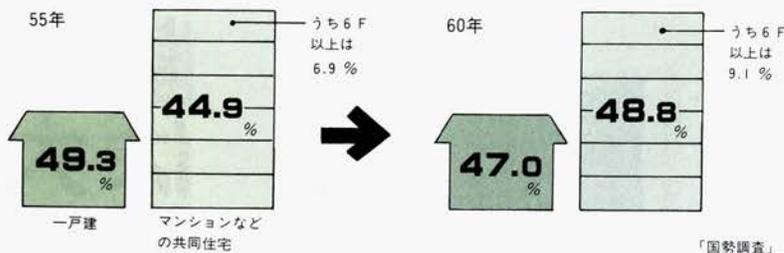


# Life Style

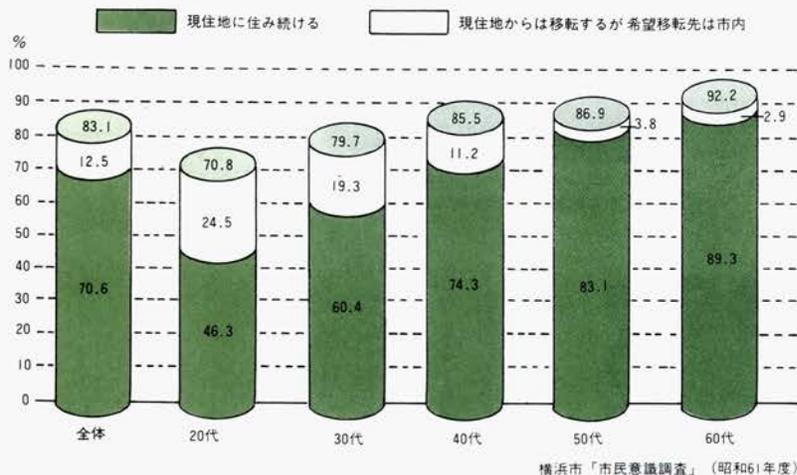
## ■広くなった住宅、多くなった“マイホーム”



## ■市内では共同住宅が一戸建を上回り高層化がすすんだ



## ■現住地に住み続ける意向の人は70.6%、市内に住み続ける意向の人は83.1%



## ■自分の親とは現在離れて住んでいるけれども、子供とは将来近くで暮らしたい



きて住み続けたいという人も多いと言える。  
親との住まい方は古くて新しい問題  
誰とどういう形で住むか。住まい方は、家族  
のあり方と切っても切れない関係にある。  
理想的な家族とは「三世代同居」であるとい  
う人は市民の55%。しかし実際には、三世代同

居は全世帯の7%にしかすぎない。  
若いときはともかく、老後は子どもと一緒に  
暮らしたいと望んでいる人は少なくない。35歳  
から59歳の市民に対する調査では、将来子ども  
と同居もしくは近くで暮らしたいと考えている  
人は、半数以上にのぼる。また、同居志向は年

齢が高くなるほど強くなるよううで、50代前半で  
は3分の1の人が同居を望んでいる。  
反面、子どもと別居でよいと考えている人も  
37%もあり、若い人ほど多いことが注目される。  
親や子どもとの住まい方は、古くて新しい問題と  
言えそう。